

# 日本バハイ全国精神行政会

## イランデスク

〒160-0022 東京都新宿区新宿 7-2-13

TEL (03)3209-7521, FAX (03)3204-0773, E-mail: office@bahaijpn.com

2009年2月23日

関係者各位殿

イランの宗教的少数派であるバハイ共同体は、長年、迫害を受けてきました。去る2月11日、イランのバハイ共同体のリーダー7名は、2月25日に裁判にかけられることが、テヘランの次長検事により発表されました。告訴の理由としては、「イスラエルのためのスパイ活動」、「イスラムの神聖さを汚す侮辱行為」、「政府に対するプロパガンダ」があげられています。イランでは、これらの罪は、死刑に相当するものです。国際的な圧力がなければ、その7名は死刑になるという恐れがあります。

バハイ国際共同体は世界中200以上の国や属領に広まっている世界的な宗教を基盤とする共同体です。そしてイランのバハイ共同体は、およそ30万人の信者を有するイラン最大の宗教的少数派です。30年前のイラン革命時に、バハイはイラン国政府から行政的な活動を禁止され、その法令に従いました。最近になって、30万以上もいるバハイ共同体の統括のために、政府の承認のもと、この暫定的な管理組織（「友ら」=Friendsと呼ばれる）が結成されました。また、その間、しばし非正式ながらも、政府と「友ら」の間では交信がありました。にもかかわらず、担当の裁判官は、この7名が「非合法的組織であるバハイ共同体の活動に従事している理由で告発されている」とインタビューで述べています。これは事実に反しています。「友ら」は、違法で活動しているわけではありません。

また、バハイは1930年代より70年以上もの間、アメリカ・イギリス・ロシアさらにはイスラエルの手先などと言われたり、イスラム教を弱めようとする政治的な組織などの疑惑をかけられたりしてきました。しかし、バハイ教の根本的教えには、すべての宗教と人種の人々との和合、政府に対する忠誠、政治への不干渉、強制改宗や暴力の禁止があり、バハイ共同体がイランの政府に脅威を与えることはありません。バハイ信教の世界本部がイスラエル（ハイファ市）にあるのは、創始者であるバハオラ（1817-1892）が祖国ペルシャ（現在のイラン）の政府から追放処分にあい、オットーマン帝国により強制的に最終流刑地であるアッカに送還されたからです。イスラエル国が建設された時から80年以上も前の話です。

裁判にかけられる予定の7名は、イラン国内のバハイのお世話をする委員会のメンバーであるこの7名のうち1名が2008年の3月に、そして残りの6名は同年5月に逮捕され、テヘランの悪名高いエヴィン刑務所に入れられています。法的な手段を得ることは拒絶され、わずかに家族などとの接触が許されるだけの状態が続きました。最近の情報によれば、7名のうちの5名（男性）は10平方メートル程度の小部屋にベッドもない状態で監禁されています。また、7名は家族たちとの面会も面と向かってではなく、電話を通しての面会のみが許されています。

彼らの顧問弁護士としては、2003年度ノーベル平和賞受賞者シリル・エバディ女史が務めています。これは、彼らの逮捕がどれほど深刻な人権問題であるかを物語っています。しかし、エバディ女史は、逮捕以来、7名に面会す

ることが一度も許可されたことがない上、彼らの事件簿を見ることも許されていません。それどころかエバディ女史は、嫌がらせ、脅迫、恐喝を受けています。

逮捕された7名のうち、2名は女性です。同委員会のメンバーは決して、テロリストや反政府運動家ではありません。彼らの職業は、発達心理学者、教師、ソーシャル・ワーカー、検眼士、農業技術者、産業資本家などです(写真と英文略歴は別紙のとおりです)。

イランのバハイは、イラン政府よりイスラエルのスパイだという理由でも迫害を受けていますが、信仰を否定すれば自由になる、高等教育を受けられる、仕事を持ち、ビジネスをすることができる、市民としての権利を付与するという条件を政府が付けていることは矛盾しています。また、イランのバハイの聖地や建物や墓地も破壊されています。したがって、明らかに、今回の7名のリーダーの逮捕および裁判は、革命時以来30年にわたる、バハイ共同体を絶滅させるための組織的なキャンペーンの強化策とみられます。これは、国連の調査機関によりドキュメンタリーが明らかにされており、この7名のバハイの人たちは無実であり、すぐに解放されるべきであり、さもなくば、すくなくとも公正な裁判がなされるよう、他国の政府のオブザーバーなどをつけるべきです。

現在バハイ国際共同体は、全力をあげて政府・メディア・思想的リーダーなどに接触を持ち、背景情報や現状をお伝えしています。また、政府レベルでは直接イラン国に上記の点についてアペールすることを要請しています。すでに米国国務省、米国国際宗教の自由委員会、カナダやドイツなどの国会議員、アムネスティ・インターナショナルなどの人権擁護団体は、強い非難の声をあげています。政府以外でもメディア等で取り上げていただき、一般市民の意識を高めていただきたい、人権擁護のために声をあげていただきたいと思います。最後に、個人レベルでも家族や友人や同僚らと、イランのバハイの状況について情報を交換したり、ディスカッションをしたりして、人権を守るため何らかの行動をとることができると思います。

上記の情報に関するより詳細な内容や関連事項については、インターネットでアクセスできるデータやドキュメントをリストアップしましたので、ご参照ください。ぜひご検討をお願いいたします。

バハイ全国精神行政会  
イランデスク

裁判に関するニュース：<http://www.iranpresswatch.org/2009/02/featuretrial-of-seven-bahai-leaders/>

米国政府、国際団体による声明文：<http://iran.bahai.us/>

7名のバハイのプロフィールなど：<http://news.bahai.org/story/699>

イラン国における人権の現状に関する国連総長の報告：

<http://daccessdds.un.org/doc/UNDOC/GEN/N08/530/75/PDF/N0853075.pdf?OpenElement>

イランのバハイ迫害に関する記事：<http://news.bahai.org/story/491>

<http://news.bahai.org/story/432>

バハイ国際共同体公式サイト(英語)：<http://www.bahai.org/>

日本バハイ共同体公式サイト(日本語)：<http://www.bahaijp.org/>

## 逮捕され、裁判にかけられる7名のバハイの友ら



(左上より時計回りに)

**Mr. Behrouz Tavakkoli** (ベフルーズ・タヴァコリ氏、57歳): 2008年5月14日、テヘランの自宅で逮捕される。ソーシャルワーカー。1980年代初期にバハイであるとの理由で職を奪われる。

**Mrs. Fariba Kamalabadi** (ファリバ・カマラバデイ夫人、46歳): 2008年5月14日、テヘランの自宅で逮捕される。発達心理学者。3人の母。

**Mr. Vahid Tizfahm** (ヴァヒード・テイズファーム氏、35歳): 2008年5月14日、テヘランの自宅で逮捕される。検眼士。

**Mrs. Mahvash Sabet** (マーヴァシュ・サベット夫人、55歳): 2008年5月5日、マシュハドで逮捕される。学校教師、校長。バハイの世話役委員会の書記。

**Mr. Afif Naemi** (アフイフ・ナエミ氏、47歳): 2008年5月14日、テヘランの自宅で逮捕される。産業資本家。

**Mr. Saeid Rezaie** (サイド・レザイ氏、51歳): 2008年5月14日、テヘランの自宅で逮捕される。農業技術士。バハイ学者、著者。

**Mr. Jamaloddin Khanjani** (ジャマロデイン・カンジャンニ氏、75歳): 2008年5月14日、テヘランの自宅で逮捕される。工場経営者。1979年の革命時に仕事を奪われる。

さらなる詳細はこちらへ : <http://news.bahai.org/story/695> (英語版)